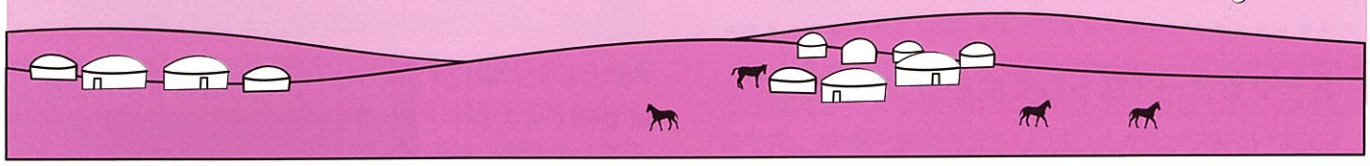
NPO法人子どもセンター「パオ」ニュースレター　発行:子どもセンター「パオ」事務局　発行日: 2008年9月30日

NPO法人 子どもセンター パオ

NewsLetter

vol.8

シェルター「丘のいえ」だより⑤●
子どもセンター「パオ」inちた2008リポート●
「子どものシェルターシンポジウム」開催●



パオの現(いま)在

シェルター「丘のいえ」だより ⑤

あなたはあなたのままでいいんだよ！

～「役割」を紡ぎ子どもに寄り添う私たちの挑戦～

月日が流れるのは本当に早いもので、「丘のいえ」から3人の子どもたちが巣立っていきました。今4人目の利用者が、自立に向けて羽を休めているところです。

希望と共に、全てが手探りで始めた生活は、私たちスタッフに多くの試練をも与えてくれています。

「丘のいえ」を訪れる子どもたちは、みな同じように大人の顔色を伺い、先の見えない不安におびえた目をしています。暴力のない安心した生活にたどり着いた彼らは、少しずつ少しずつ、私たちに重い心の扉を開き始めます。

自己否定され、暴力に押しつぶされそうになった日々。でもいつの日か、この苦しさを乗り越え、私らしく生きたい。不安・おびえ・期待・戸惑い…そうした混沌とした感情に揺れる中で、自分探しをする彼らは、時として私たちに強い怒りの感情をぶつけることもあります。それらは、心の中に渦巻く大人に対する大きな不信感であり、乳幼児の発達を伺わせるような激しい自己表現と、大人を試すような行動となり、彼らが生きてきた日々の過酷さと壮絶さを物語っているようにも見えます。

スタッフに様々な感情をぶつけることで、今まで出会ってきた大人とは違う反応に戸惑いながらも、少しずつ真の自己感情に目覚め、「この人たちは決して自分を否定しない」という安心感を重ねていくのだと思います。

しかし、傷ついた心の回復のプロセスに寄り添う道のりは果てしなく、時には、子どもたちと向かい合う気力もなくなるほど、スタッフの心は疲れ切ってしまうことも少なくありません。

自分が発した言葉は子どもたちにどのように届いたのだろうか。傷つけてしまってはいないだろうか。そうした自己問答の日々を支えるのは、パートナー弁護士、生活支援員、ソーシャルワーカーなど、さまざまな立場の仲間の存在であり、その「役割」です。

「パオ」の理念である“あなたはあなたのままでいいんだよ！”のメッセージを、多くの子どもたちに届けたい。その大きな夢の実現には、子どもに寄り添いたいという熱い思いと、人としての平等感を土台にした、互いに自己肯定しあえる、私たち大人の姿勢が問われている気がしてなりません。

さあ、私たちの挑戦は始まりました。

一つずつ「役割」を確かめ合いながら、「パオ」らしいピカピカと輝く、暖かくふんわりと子どもたちを包み込むような、ほつれない、丈夫な布をみんなで紡いでいきましょう。

（子どもセンター「パオ」ソーシャルワーカー　K）